

長崎県地方史だより

第73号

題字 小曾根 星 堂 先生

長崎のイエズス会本部に眠る宣教師たち

日本二十六聖人記念館、デ・ルカ・レンゾ



現在の県庁敷地に400年前にイエズス会の本部が置かれていた。迫害などによって

様々な変化を見たイエズス会の住居の内、一番安定していた場所だったと言えよう。本部はオフィスでありながら住居でもあり、礼拝の場、墓地の場所でもあった。基本的に管区本部と関わる会員しか住んでいなかったが、旅行者、安静期間を過ごす会員、治療を受ける会員などさまざまな場所でもあった。

ここで、この本部に葬られたイエズス会員を紹介したいと思う。まず、史料で確認できる人と基本的な情報を一覧表に出す。整理番号は没年順にした。(2P参照)

表の見方:「P.」は神父を指す。「Ir.」は修道士を指す。「?」は不確かで可能性の高い情報を指す。空欄は不詳。史料には名前がローマ字しか載っていないので、日本人の場合、推定の漢字となる。国籍は当時の習慣に従った。例えば、マカオ生まれの会員をポルトガル人として掲載されている。この表は正式に入会

し、本部敷地内にあった墓地に眠ったイエズス会員に限る。つまり、同宿や看坊を含まない。史料に掲載されなかった会員も葬られた可能性がある。長崎で死去してもその遺骨がマカオに移されたセルケイラ司教のような名前、また殉教して葬られなかった多くの会員の名前も掲載していない。

会員によって情報量が異なるが、史料を基にした簡単な紹介をした。説明の後に主な情報源を載せる。上掲の一覧表以上の情報がない会員を省略する。

1、ミゲル・ヴァズ Miguel Vaz

インド生まれのポルトガル人。1562年にマラッカでモンテとフロイスと出会って入会する前にその二人と共に横瀬浦着で来日。一旦マカオに戻るが、日本に戻って1564年に口之津で入会した。

商人として得た知識を生かして会計係になり責任者達と共に移動する。1579年にマカオに渡り神父になって1580年に日本に戻る。1582年に長崎で死去。フロイスによれば会計の仕事共に熱心

目次

- ・長崎のイエズス会本部に眠る宣教師たち・・・ デ・ルカ・レンゾ・・・ 1
- ・司祭館・学院・神学校は、有家の砦にあった・・・ 生駒 輝彦・・・ 5
- ・松倉重政の野望と誤算・・・ 福田 八郎・・・ 7
- ・地方史研究会及び県内各加入団体の活動状況・・・ 9
- ・事務局より・・・ 14